

# 国立大学法人東京医科歯科大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

## 1 全体評価

東京医科歯科大学は、幅広い教養と豊かな感性を備え、自己問題提起・解決型の創造力を持つ、国際性豊かな人材の養成、深い専門性と高度な技術を習得した、世界をリードする研究者及び医療人の養成、高度医療と社会貢献の拠点としての病院機能の強化等を目指している。第2期中期目標期間においては、産学官の国内外研究機関との連携を推進し、世界トップレベルの研究拠点としての強化を図ること等を目指している。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、優秀な研究者を有する学外の研究機関との間で連携大学院協定を結び、大学院教育の充実と研究活動の推進を図っているほか、教育研究のさらなる進展のため、学長裁量経費を効果的に配分するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

## 2 項目別評価

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学長裁量経費を2億5千万円計上し、公的補助の終了したプロジェクト研究等を対象に、大学の発展に寄与することが予想されるプロジェクトのフォローアップや学長と学生の懇談会により把握した教育環境の改善要望への対応の実施のために、効果的な資源配分を行っている。
- 図書館情報メディア機構に、「図書館メディア推進部」と「情報戦略部」を配置し、これまで別々の部署で行っていた情報推進に係る業務を一つの機構の下に統合したことにより、図書館メディア推進部と情報戦略部が互いに情報共有しながら業務を遂行することで、大学全体の情報化を効率的に推進する体制を整備している。
- 専門的な知識や経験、資格を有する者を広報・国際交流・産学連携・情報処理・医療支援等の専門的な職務に従事する専門業務職員として一般事務職員とは異なる処遇（給与等）で採用し、多様な人材を確保している。

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

## **(2) 財務内容の改善に関する目標**

- 〔 ①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、  
③資産の運用管理の改善 〕

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 産学連携推進本部が技術紹介を行ったことにより、ライセンス収入は、1,548 万円 (対前年度 944 万円増) となっている。

### **【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

## **(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

- 〔 ①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進 〕

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 教員個人評価結果の賞与への反映、ベストティーチャー賞の選出・表彰を行うとともに、「東京医科歯科大学優秀研究賞」を新設し、優れた研究成果を上げた教員に対してその功績を表彰するなど、多様なインセンティブの付与を実施している。

### **【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

## **(4) その他業務運営に関する重要目標**

- 〔 ①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守 〕

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 産学連携推進本部内に産学連携担当の副学長を室長とする産学連携リスクマネジメント室を開設し、産学連携研究に関する契約や利益相反に関するマネジメント、法令遵守 (コンプライアンス) 等を研究者に十分に理解させるための取組を行うなど、産学連携支援活動体制の充実、整備を図っている。

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 職務上行う教育・研究に対する教員等個人宛ての寄附金について、個人で経理されていた事例があったことから、学内で定めた規則に則り適切に処理するとともに、その取扱いについて教員等に周知徹底するなどの取組を引き続き行うことが求められる。
- ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針違反があったことから、職員への教育研修の徹底や、研究に対する審査体制の強化など、組織として確実な再発防止に取り組むことが求められる。
- 元職員が物品を不正転売した事案を踏まえ、物品発注体制の見直しや執行状況の定期的な確認作業の義務化について決定するなどの取組を行っているが、今後とも再発防止に向けたさらなる取組が求められる。
- 大学院生が学外で患者の個人情報記録されていた USB メモリー等を紛失する事例があったことから、再発防止とともに、個人情報保護に関するリスクマネジメントに対する積極的な取組が望まれる。

**【評定】 中期計画の達成のためにはやや遅れている**

(理由) 年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成 23 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われているが、教員等個人宛ての寄附金について個人で経理されていた事例があったこと、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針違反があったこと、元職員が物品を不正転売した事案が発生していること等を総合的に勘案したことによる。

## II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 医歯学総合研究科と理化学研究所、国立精神・神経医療研究センター、東京都医学総合研究所、国立がん研究センターの各研究機関との間で「連携・協力に関する連携大学院協定」を締結し、各研究機関の研究者が連携教授として大学院生の指導に当たること、大学院における教育研究活動の一層の充実を図るとともに、各研究機関との協力による研究活動の推進及びその成果の普及を促進している。
- 医学科第 5 年次生の臨床実習（クリニカル・クラークシップ）における内科系ローテート学生に対して、臨床推論能力を養成する目的で症例基盤型臨床推論演習セッションを実施しているほか、臨床推論学習のための少人数演習を実施し、その評価及びさらなる知識定着・応用を目的とした TBL（医療人を育てるチーム基盤型学習）を実施している。また、臨床実習終了後も OSCE（客観的臨床能力試験）を実施し、その結果に基づき臨床推論技能教育を強化するための教育研修を実施している。
- 留学生に対するフォローアップ事業として、母国で活躍している帰国留学生をタイ、

マレーシア、韓国から計 13 名招へいし、リカレント教育を実施している。

- 国際交流センターの下に「グローバルキャリア支援室」を設置し、語学力及び論理的思考力向上のための取組や海外留学機会の拡大、海外教員を招へいし教員研修を行うなど、学部学生のグローバル化対応力強化及び教育課程のグローバル化に向けた取組みを始めている。

## **附属病院関係**

### **【医学部附属病院・歯学部附属病院共通】**

#### **(教育・研究面)**

- 医学部附属病院の「臨床試験センター」及び歯学部附属病院の「歯科器材・薬品開発センター」が治験、臨床試験等による研究の臨床応用への取組をサポートした結果、治験の新規契約件数は対前年度比 4 件増の 35 件へと増加しているほか、医歯工連携の共同研究の発展に向けて医歯工連携実用化施設を設置し、大学で開発された材料、デバイス、機能分子の応用に関する教育、研究を行っている。

#### **(診療面)**

- トップアスリートの競技力向上並びにスポーツ医歯学の診療及び研究を発展させるため、医学部附属病院スポーツ医学診療センターにスポーツ外来部門とアスレティックリハビリテーション部門の 2 部門を置き、オリンピック選手等のコンディショニング等を行うとともに、歯学部附属病院スポーツ歯科外来においては、口腔領域の外傷治療やマウスピース等の作成・調整を担当するなど、両附属病院が連携し、スポーツ医歯学分野における先進的な治療を提供している。

### **【医学部附属病院】**

#### **(教育・研究面)**

- 初期臨床研修において、研修医からの指導評価、環境評価を全診療科の平均値とともに各科研修実務担当者に対してフィードバックするなど、継続してプログラムの改善を図っており、平成 24 年度医師臨床研修マッチングにおける第 1 希望者数（中間公表値）は全研修施設中 1 位となっている。

#### **(診療面)**

- 難病に対し複数の診療科が全人的・横断的・先進的な医療を提供するため、「膠原病・リウマチ先端治療センター」等、5 つのセンターから構成される「難病治療部」を設立し、運用開始 1 年間で 335 件の診療実績を上げている。

#### **(運営面)**

- 「地域連携室」「患者相談室」「医療福祉支援室」から成る「医療連携支援センター」を発足させるとともに、平成 25 年 1 月からは紹介状を有している初診患者の事前予約制を全診療科へと拡大させるなど、患者サービスの向上に努めている。
- 医療従事者が免許登録前に診療に従事していた件については、法令遵守の観点から、新規採用者に対するオリエンテーションでの周知や採用事務手続きにおける法人本部担当部署及び附属病院担当部署間の連絡・連携体制の整備、院内医療情報システムの運用上の改善などに取り組むことが求められる。

## 【歯学部附属病院】

### （教育・研究面）

- 歯科材料や歯科医療機器の開発、医療現場への迅速な導入を目指して、歯科器材・薬品開発センターは生体材料工学研究所医歯工連携実用化施設と連携し、大学発研究シーズの実用化に向けた企業とのマッチングや、薬事申請の際に必要な非臨床試験の実施依頼への対応を進めているほか、歯学科等の学生に対して歯科医療機器の薬事法に関する基礎知識や、研究成果の製品化を目指す際の課題や許認可制度に関する講義を実施している。

### （診療面）

- 睡眠時無呼吸症候群の歯科的治療に関わる診療体制を整備し、従来の歯ぎしり・いびき（無呼吸）外来に代えて、快眠歯科（いびき無呼吸）外来を開設し、医学部附属病院快眠センターとの連携体制の充実を図っている。

### （運営面）

- 経費削減や増収に係る取組として、歯科技工士増員による院内技工体制強化によって十分な経費削減の成果を得るとともに、歯科用3次元 CT 撮影料金の増額改定を行ったことにより、約 500 万円の増収を実現している。